インド国ウッタラカンド州
山地災害対策プロジェクトにおける
治山実務研修

２０１７年から３年目となった、２０１９年１１月１１日及び１２日、インド国ウッタラカンド州森林局職員及び技術者等（１０名）を対象とした治山実務研修を実施しました。

同州では、２０１３年６月に豪雨に伴う洪水・土砂崩れにより死者・行方不明者を合わせて約６，０００人という甚大な災害が発生しました。

これを受け同森林局では、国際協力機構(JICA)の支援のもと山地災害プロジェクトを進めています。

当該研修の第一日目は、渓間工と事前にリクエストのありました「山腹工の成果を見ることの出来る成林した施工地」の二箇所を研修場所としました。

あいにくの傘を必要とするような天気にも関わらず、聞く姿は熱心そのものであり、日本人なら説明が終了した後に質問がなされるところですが、説明の途中でも質問がなされるほどで、センター職員が戸惑うことも多々ありました。

⇧雨天にもかかわらずセンター職員による説明を熱心に聞く研修生

⇦集合場所の井川ビジターセンターにおいて、施設に設置してある立体図で行程の説明をした際には、図面上にあるリニアのトンネルに係る質問が飛んできて、即答できない部分もありました。

なお、当該研修においては、今回の研修で基礎的な研修を受け持っておられる講師の先生が同行され、止め処なくされる質問に対して、治山センターで答えられない部分についても説明をしていただき、センター職員一同感謝しております。

（※治山のみならず、様々なことに対応できる知見の深さには敬服せずにはいられませんでした。）

２日目は、天気にも恵まれ、現場研修には最適の日和でした。
山腹工を実施している箇所３箇所、慨成している山腹工１箇所について、順次説明をしていきました。
なお、移動のため、自動車に乗車するまでの間で、目について気になったもの（林道法面の特殊配合モルタル吹付やテストピースなど）には立ち止まり、説明を求めるなど、本当に熱心さがうかがえました。

熱心に聞く研修生
説明の最中に⇨のようになりました。

⇧吹付に使用する機材の説明を聞く研修生

⇧地下足袋を試着する研修生

初日（前ページ）同様、なぜか記念撮影はＶ字型⇨

本年は、近畿中国森林管理局内でも研修が行われ、本研修が同州の山地災害プロジェクトの一助になれば幸いです。
また、ウッタラカンド州森林局より、記念品として「ガネーシャ神」というインドの神様の像をいただきました。大切に扱わせていただきます。
なお、今回で研修が最後であることについて、お知らせがありました。3年間に渡り大井川の奥地まで来訪されお疲れ様でした。
当日対応をいただきました施工業者の方々には、お忙しい中ご協力をいただき、本紙面をもって感謝申し上げます。